

聖書日課 『からし種』 2024.12.15-12.22

<p>12月 15日 (日) ホセア 8章</p>	<p>「エフライムは罪を償う祭壇を増やした。しかし、それは罪を犯す祭壇となった」(11節)。人々は暮らしが豊かになるにしたがって祭壇を増やした(10:1)が、それは「もっとほしい！」という欲望の祭壇だった。しかし主なる神が求めるのは感謝と献身の祭壇である。「あなたのあふれる恵みを感謝します。この恵みを分かち合い生きる信仰と愛を与えてください」。</p>
<p>16日 (月) ホセア 9章</p>	<p>「麦打ち場も酒ぶねも、彼らを養いはしない。新しい酒を期待しても裏切られる」(2節)。一年の収穫の喜びに沸く麦打ち場や酒ぶねは、収穫をもたらす神を礼拝する場となった。しかし「収穫＝富＝神」では決してない。貧しき時も富める時も空腹のときも満腹の時も、対処する秘訣を授け、私たちを強め導いてくださる方(フィリピ 4:12)をこそ礼拝していきたい。</p>
<p>17日 (火) ホセア 10章</p>	<p>「イスラエルは伸びほうだいのぶどうの木。実もそれに等しい」(1節)、「恵みの業をもたらす種を蒔け／愛の実りを刈り入れよ」(12節)。ぶどうは適切な剪定をして、風通しを良くしないと豊かな実を結ばない。「恵みの業と愛の実り」をいただくためには、痛みを伴う剪定が必要なのだ。真実の愛をもって剪定してくださる農夫なる神を信頼し、導きを求めていこう。</p>
<p>18日 (水) ホセア 11章</p>	<p>「エフライム(イスラエル)の腕を支えて／歩くことを教えたのは、わたしだ。しかし、わたしが彼らをいやしたことを／彼らは知らなかった」(3節)。子が親の愛と献身を知るのは、自分が親の世代となり人生の苦労を知るようになってからではないか。どれだけ神と人から支えられ、教えられ、癒されてきたか。気づかされた時、素直に感謝をあらわしていきたいと思う。</p>

聖書日課 『からし種』 2024.12.15-12.22

<p>19日 (木) ホセア 12章</p>	<p>「神のもとに立ち帰れ。愛と正義を保ち／常にあなたの神を待ち望め」(7節)。世の商人たちは欺きの秤を手にし、利をむさぼる(8節)。その心に神への畏れはない(9節)。ここで「神のもとに立ち帰れ」とは、「神への畏れを取り戻せ」の意だろう。目前の利に心奪われることはなく、神の愛と正義が最後に勝利することに信を置く、ぶれない信仰をいただきたい。</p>
<p>20日 (金) ホセア 13章</p>	<p>「わたしこそあなたの神、主。エジプトの地からあなたを導き上った。わたしのほかに、神を認めてはならない。わたしのほかに、救いうる者はない」(4節)。「わたしのほかに…ない」。自らの利や誉れを一切求めず十字架に死なれた主イエス。この方以上に私たちを深く愛する神はない。十字架を貫いて示された復活の命。これ以上の希望を与えてくださる神はない。</p>
<p>21日 (土) ホセア 14章</p>	<p>「わたしは背く彼らをいやし／喜んで彼らを愛する」(5節)、「わたしは命に満ちた糸杉。あなたは、わたしによって実を結ぶ」(9節)。ホセアほど、主なる神の愛をストレートに伝えた預言者はいない。実生活では夫婦関係に苦悩したようだが、そんなホセアだからこそ、不出来なイスラエルをそれでも愛し、求め、いやし続ける神の愛が強く心に迫ったのだろうか。</p>
<p>22日 (日) ヨエル 1章</p>	<p>「この地に住む者よ、皆耳を傾けよ。あなたたちの時代に、また、先祖の時代にも／このようなことがあっただろうか」(2節)。ヨエルが初めに描き出すのは圧倒的な速さで変化する世界情勢、思いも寄らない課題や危機に次々と向き合わされる私たちの姿。欲望か怒りか自分の思いに駆られ、突っ走る先がどうなるか、主の忠告に耳を傾ける時をもちたい。</p>